

株式会社 イチムラボディーショップ



●自動車の整備、板金塗装

- 代表者名 代表取締役 市村 智
- 設立年月日 1968年(昭和43年)12月
- 所在地 〒400-0117 山梨県甲斐市西八幡2387-1
- TEL 055-276-4259
- FAX 055-279-8659
- E-Mail info@ichimura-bodyshop.com
- URL http://www.ichimura-bodyshop.com
- 業 種 自動車整備業
- 資本金額 300万円 ■ 従業員数 7人

インタビュー

代表取締役
市村 智

テーマ

近赤外線超高速塗装乾燥システムの導入による作業効率化と付加価値向上

日本初導入の近赤外線を活用した超高速乾燥システムの導入により、全作業工程のリードタイムを1/2に短縮して付加価値の高いサービスを実現。さらに水性塗料への完全切り替えも実施し、作業者の健康と環境への負担削減にも成功した。



日本初導入の「クイックドライシステム」釜無川沿いに建つ、赤をアクセントカラーにした自動車整備工場。その建物は整備工場と言わなければわからないほどすっきりとしたキレイな佇まいをしている。工場の中に入るとさらに驚く。整備工場ならではの鼻をつくような臭いが、まったくしないのだ。

掃除の行き届いた整備フロアにはゴミひとつ落ちてなく、どのスペースも広々としていて、預かった車を丁寧に扱っていることが伺える。従業員は揃いのポロシャツにチノパンという清潔感あふれる姿で仕事に取り組んでいて、その表情から生き生きと働いている様子が感じられる。

ここは、全国からも注目を集めているイチムラボディーショップの整備工場だ。全国の数ある整備工場の中で先駆けて、近赤外線超高速塗装乾燥システム「クイックドライシステム」を導入するとともに、水性塗料への完全移行を実現。業界を

けん引する先進的な整備工場として、全国各地から視察が訪れている。

先進的工場の要となっているのが、今回導入したクイックドライシステムだ。一般的に自動車補修作業の中で、作業効率化のネックになっているのが塗装乾燥工程で、自動車補修に不可欠な下地調整や塗装工程では、完全に乾くまでの乾燥の時間を必要とする。その時間は温度や湿度といった環境にも左右されやすく、作業者の技術向上によって短縮することができない。

クイックドライシステムがその課題を解決した。塗装作業では塗装ブース内の空気を暖めたり、赤外線で直接塗装面を暖める焼付け塗装が一般的だ。だがクイックドライシステムはガスの触媒上での反応を利用して近赤外線を発生させ、塗料等に含まれる水分や溶剤、樹脂に直接働きかけ、塗装自体を発熱させて乾燥硬化を促すことができるのである。

「ボディを熱することなく、塗料やパテのみを短時間で乾燥させることができる画期的なシステムです。車そのものの熱が上がりにくいので車への負担が少なく、もちろん仕上がりもととてもきれいです」と、市村社長は自信に満ちた笑顔で説明してくれた。

時代のニーズに応える整備工場へ



最新設備を備えたイチムラボ
ディショップの整備工場

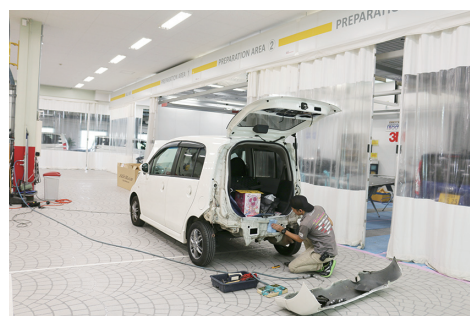
全国初導入となった同社では、クイックドライシステムの導入に合わせて新工場を建築。システム販売会社のアドバイスも受けながら、最適なスペースを確保した。

導入後は黒、赤、銀メタなど色の異なる実験車両やパネルを使用してベース塗料とクリア塗料を行い、乾燥工程時間や、塗装ブース内に浮遊するチリやほこりが付着して突起物となるブツの数、仕上がり具合などの検証を重ねた。

約3ヶ月の検証の結果、乾燥時間の短縮により全工程作業時間は260分から120分へと1/2以下になり、ブツ数は140個程度から10個程

度へと大幅な減少を達成。作業効率のアップと付加価値の向上を見事に実現した。

また同社では環境への配慮や従業員の健康面などを考えて、5年ほど前から水性塗料に移行しようとして取り組んできているが、有機溶剤以上に乾燥時間を必要とする水性塗料では、作業時間、品質ともに望むような結果を得られず、移行に踏み切れずにいた。しかしクイックドライシステムの導入により、水性塗料への完全切り替えも実現。欧州車をはじめ、国内でも新車塗装ラインでは100%水性塗料に移管している中、時代のニーズに応えられる体制が整った。



すっきりとした整備工場内。
明るく清潔感がある

夢を持てる業界にしていきたい



仕事の確認をする従業員。揃いのポロシャツとチノパン姿だ

今回、新工場の建設と新設備の導入により、新たな一歩を踏み出した同社だが、そこには市村社長の大きな決断があった。

近年、車の安全性能の高まりによる事故率の低下、保険料率の改定など、自動車補修業界を取り巻く環境はとても厳しくなっている。そんな状況の中で取り組んだ新設備の導入は、直接的に売上に結びつくわけではない。投資額も大きいため、全国の数ある整備工場でも導入するところは少なく、2017年9月時点でまだ4社のみだという。では、なぜ市村社長は導入を決めたのか。

「最新の設備と確かな技術で、お客様に最高のサービスを提供したいという思いが何よりです。よそには真似できない仕事、お客様に喜んでいただき、選んでいただける仕事をしたいという思いです。そしてものすごい暑さとキツイ臭いの中で長時間作業しなければならなかった職場環境も改善し、従業員がこの仕事にプライドと目標を持って取り組める環境をつくりたかったんです。これ

からこの業界はさらに厳しくなるとは思いますが、その中でも夢を持てる業界にしたいと思っています。今回の取り組みは業界としても大きな一歩だと思います。」

そう語る社長の言葉には、この仕事への熱い情熱、ともに働く従業員や業界全体に対する強い想いがあふれている。

今後は新たな従業員の雇用にも取り組み、クイックドライシステムの活用を高める中でさらなる短納期、高品質をめざしていく計画だ。

「サービスの付加価値をさらに高め、将来的にはこすってしまった車を夕方に預けたら、翌朝には修理が終わって会社に乗っていけるほど迅速なサービスを提供できる会社になりたいです。そして『お客様に喜んでいただく』という価値観を従業員と共有できる会社でありたいと思います。」

大きな夢に向かって確かな一歩を踏み出した市村社長。その目線の先にはいつも、お客様と従業員の笑顔が輝いている。



整備工場内のひとつひとつの
スペースが広々としている